

仲間集めから店作り、商いまで子どもたちが手掛ける「こどもゆめ横丁」が4日、川崎市高津区の市子ども夢パークで開かれた。7回目の今年は、保育園児から高校生まで約120人が参加。

射的やアクセサリー、そば販売など約30の店が並び、子どもたちの「いらっしやい」「安いよ」と元気な声飛び交った。

(平木友見子)



手作りのアクセサリーを販売する子どもたち—高津区の市子ども夢パークで

■高津でイベント

各店舗は、収益の1割を「横丁税」として納税。納められた「税金」は、みんなで話し合っ
て使い道を決めるといい、施設内に植えるサクラランボやミカンの苗木、遊具の材料、

自立心をほぐくむ狙いの催しで、子どもたちは十月下旬から、廃材を使って店を建てたり、食品衛生講習を受けたりして準備を進めてきた。アニメのキャラクターやうずまきをあしらったホットケーキを販売した小学三年生の藤井香里さん(ハチ)は「去年やったアクセサリー店よりお客さんがたくさん来て大変」とうれしい悲鳴。

本を購入などに使われてきたという。同施設の西野博之所

長は「不登校でフリースペースに通う子も、学校に通う子も、みんな一緒になって『商店街』を作っている。今年も面白いお店がたくさん出店した」と目を細めていた。

アイデア満載「ゆめ横丁」 子どもたち手作り30店